



<http://www.rupinasu-inc.co.jp/>

★最新介護医療情報★

3Dプリンターで心臓製作に成功 血管の再現は世界初

(朝日新聞社 H31.4.16[火] 配信)

ヒトの細胞を使った心臓を3Dプリンターで製作することに成功したと、イスラエルの研究チームが15日、科学誌に発表した。血管まで備えた心臓の製作に成功したのは世界初という。「10年後には患者に移植できるようにしたい」としている。

発表したのは、テルアビブ大学のタル・デビール教授(生命工学)らのチーム。教授らは心臓血管に疾病を持つ患者の脂肪細胞を使い、あらゆる細胞に分化できる幹細胞を作製。細胞の塊などでできた「バイオインク」を作製し、3Dプリンターで心臓の形に積み重ねていった。プリンターは自動制御で細胞を組み立て、3~4時間で完成させる。

完成した心臓は、大きさ1センチほど。心臓の周囲には主要な血管も再現されている。今後は培養で組織の成熟を促し、電気信号を与えて拍動させることが目標。その後、動物実験で実際の心臓移植を目指すという。

食中毒報告数、寄生虫アニサキスが最多…病原菌や「ノロ」上回る

(読売新聞社 H31.3.15[金] 配信)

2018年の食中毒の報告件数のうち、海の魚介類に寄生し、激しい胃痛などの原因となる寄生虫アニサキスが、ウイルスや病原菌を抜いてトップになったことがわかった。厚生労働省が13日に公表した。

アニサキスはサバやアジ、サンマなどの主に内臓に潜み、刺し身などの生食で体に入る。約3週間で排出される間に、胃や腸に激痛を起こすことがある。内視鏡で除去する治療法が一般的だ。死亡例はない。

厚労省によると、18年の食中毒の報告総数は1330件。そのうちアニサキスは468件で、2位の病原菌カンピロバクター(319件)、3位のノロウイルス(256件)を上回った。18年はカツオ由来の報告が多かった。一方、アニサキスは感染が広がらないため、患者数は478人で、ノロウイルス(8475人)やカンピロバクター(1995人)を大きく下回っている。報告件数が増えた背景には、食品衛生法に基づく国への届け出の項目に、13年からアニサキスが明示されたことが影響しているとみられる。アニサキスは十分な加熱や冷凍処理で感染力を失うが、しょうゆやワサビ、酢締めでは効かない。厚労省は十分に処理された魚介類を選んで食べるよう注意を呼び掛けている。

地域ルピナス講習会のお知らせ

第34回忠岡地域リハビリ勉強会

⇒薬効の不安定なパーキンソン病の方への
チーム連携での関わり

開催日：令和元年5月24日(金)

時間：午後6時30分～午後7時30分

場所：忠岡町文化会館 3階会議室

講師：ルピナス看護師 愛須史子

第64回東大阪地域リハビリ勉強会

⇒在宅における廃用症候群の予防について

開催日：令和元年6月20日(木)

時間：午後6時00分～午後7時00分

場所：東大阪市立東体育館 第三研修室

講師：ルピナス理学療法士 奥村伊世

第24回城東地域リハビリ勉強会

⇒在宅で関わる呼吸器疾患について

開催日：令和元年6月28日(金)

時間：午後6時30分～午後7時30分

場所：城東区民センター 中会議室

講師：ルピナス理学療法士 池田遼

